地域とのコミュニケーション情報発信紙

敬老園便り

第50号
令和8年
1月1日発行

【編集・発行】敬老園本部／〒386-0027 長野県上田市常磐城2256-1 2F　TEL.0268-28-1170(代)

一段と厳しい経営環境下
逆風に立ち向かう一年に

明けましておめでとうございます。

「あってよかった敬老園」を実践して、今年法人開設から53年目を迎えます。役職員一丸となって「ご利用者の視点」で取り組みますのでよろしくお願いいたします。

さて、少し介護業界の現状について触れさせていただきます。2024年12月に厚生労働省より2022年度から2023年度にかけて、要介護認定者等が1.1%増加する一方、介護職員が2万8千人（前年度比△1.3%）減少したと発表がありました。そして、現在必要とされる介護職員は、既に32万人不足しており、2040年には69万人余不足すると見込まれております。このまま推移すれば介護難民が多数出現してしまいます。

「明るい老後」を目指す当法人も、人材確保が重要課題となっております。介護保険制度施行から26年目。この間介護報酬が上がらない中でも、県内最低賃金は施行時641円が現在1,016円（158.5%増）と推移してきており、厳しいかじ取りとなっております。外国人労働者頼みやむなしで当法人では17年前からEPA（経済連携協定）によりインドネシアやベトナムより人材を受け入れ、現在100人に迫ろうとしています。物価高対策など課題山積みで厳しい経営環境ですが、逆風に立ち向かう1年になるよう役職員が一丸となって努力してまいります。

また、これからもご利用者様に「安心、安全」を提供できるよう事業運営に全力を注いで参ります。

本年もよろしくお願いいたします。

理事長 斎藤 剛志



HAPPY NEW YEAR
2026



介護崩壊を防ぐ経済対策 経営改善・賃上げなるか

昨年11月21日政府が決定した経済対策に、医療機関・介護施設の「支援パッケージ」が盛り込まれました。介護では、緊急措置として全従事者全般に半年間月額1万円の賃上げ、医療では賃金を半年間3％上げる。これは補助金として2025年度補正予算計上。介護職員は、全産業平均より賃金が低く、深刻な人手不足が慢性化していることから経済対策では賃上げに重点を置き、今年4月に経営改善のため臨時の介護報酬改定が実施されます。

「公定価格」として、医療の診療報酬改定は2年に1度、介護は3年に1度改定となっており、賃金格差、物価高、深刻な人材不足等への対応がタイムリーではなく後手にまわり、厳しい環境下赤字経営・倒産件数が過去最高となっております。「百姓は生かさず殺さず」と、江戸幕府をひらいた徳川家康の言葉として伝えられており、現在の介護保険制度（以下制度）・報酬が類似していると思います。

今年４月、制度施行後26年。この間8回の改定を経て介護報酬は僅か0.06％上昇でした。事業者は定められた報酬の中で経営せざるを得ません。制度の半市場性からコムソン、ニチイ、ツクイなど大手が株式市場から撤退していった背景は必然と言えます。

50年以上医療・介護業界で経営に関わってきた私は、制度が施行された時から今は「医療は氷河期」、早晩医療の後追いで「介護も氷河期」になると、言ってきましたが現実となっています。

敬老園は「明るい老後を」を目指して、制度施行前から地域に根差して積極的に基盤整備・サービス提供に努めてまいりました。先に厚生労働省が発表した要介護認定者の増加率を介護離職者率が上回る状況が今後も想定され、多くの介護難民出現を危惧しております。地方での深刻な医師・保育士等不足は賃金・待遇面から都市部偏重に。国力低下の日本、出稼ぎ先として外国人が産業の担い手として増加し続けられるのか？技能実習・特定技能生・永住者等との共生社会の進展。疲弊化した医療・介護業界に効果的な経済対策としての「ビタミン剤」を切にお願いしたい。

（文責・名誉会長 斉藤俊明）

令和の米騒動

～コメの確保・価格高騰問題、政治の責任は重い～

令和6年夏にスーパーからコメが消える「令和の米騒動」が発生し、価格の高騰に繋がりました。敬老園は、長年契約農家との間で銘柄米の長野県産コシヒカリ（特A・A地区米）年間使用量分1,350俵を確保してきました。価格も含め安定確保しており、「大丈夫と安心」しておりましたが、現実は必要数の6割しか確保できませんでした。要因は、農協が設定したコメ農家に支払う前払い金（概算金）を1俵（玄米60kg）当たり5千円を超える価格で民間の業者が現金買いをしたためでした。価格高騰覚悟で、不足分を確保するため、スーパーまわりやコメ農家の保存分を分けてもらう等、大変な労力を割きました。令和7年産については、反省に基づき新たなコメの契約農家を加えて作付の段階で契約をし、敬老園も現金買いで臨むも、目標の75%しか確保できませんでした。米の価格が高騰し農協が示した概算金が前年比7割強と高騰。概算金を上回る価格を掲示するも民間買い取り業者との価格競争に勝てませんでした。不足分は、ブレンド米も対象にと考えています。

コメに限らず食料品の高騰による1日の食材費（人件費・光熱費等含め）が2,000円を超えており、3年に1度の介護報酬改定による特別養護老人ホーム食費の公定価格が1日1,445円で経営を圧迫しており価格高騰に弾力的な価格設定を切にお願いしたい。コメの価格について、専門家は「令和8年産、減反政策で対前年5%減を農水省が指示。自民党と維新の連立政権下で、合意文書のなかに過去に例がないほど高騰しているコメ価格を下げる政策について言及がなかった。食料品の消費税をゼロにしても、現政権下の農業政策ではコメの高価格は続く」とみております。

事業者が日々ご利用者に美味しいコメを提供したいと努力しているコメ問題を政治は避けて通らないで頂きたい。

（文責・名誉会長 斉藤俊明）







敬老園
Photo News



入職3年目 若手職員研修会開催

～ 同期の友情・成長を実感 ～

11月6日、法人本部講堂に於いて、入職3年目の19名の職員が研修会に参加し、熱心な聴講やディスカッションの場となりました。当法人では毎年入職3年目の職員を対象に研修会を開催しております。参加者から好評で離職防止にも一役買っています。3年目という時期を、「教えられる立場から教える立場へと変化」、「中堅職員としての責任感」、「業務への慣れから停滞感を感じる」など、様々な業務を任され始めることにやりがいを感じつつも悩みも非常に多くなる時期と捉え、中長期的な人材育成とキャリア育成を図っていくためにサポートしていくことへの重要な取り組みとなっています。

研修では、斎藤名誉会長・斎藤理事長からの講話、先輩職員の経験談、事前課題を基にしたグループディスカッション等が組み込まれており、利用者、チームワーク、自己啓発など様々な視点から考える力を養いました。

研修始めは若干の緊張もあったものの、久しぶりに会う同期の仲間達とお互いの成長を感じる有意義な時間となり、「懐かしい！」「同期は良いな！」「良い機会を設けてもらい明日から頑張ろうという思いになりました！」等たくさんの意見が寄せられました。法人の未来を担う若手職員が大きく成長していくことを願って今後も取り組んでまいります。



グループディスカッション



先輩職員の経験談



集合写真

Newsその2

今年も宮下 賢様から
車椅子寄贈あり

感謝状贈呈



11月14日、宮下歌謡教室を主宰されている宮下賢様が、法人本部に来園され、車椅子を2台寄贈されました。

宮下様は毎年チャリティーコンサートを開催し、収益金の一部を市町村、福祉施設等へ寄付されています。今回寄贈いただいた２台の車椅子で累計23台となりました。宮下様から「続けられる限りは続けていきたい。少しでもお役に立てれば嬉しい。」とお話しがありました。この活動は10年以上前から継続されており、コロナ禍では車椅子だけでなくマスクを贈ってくださる等、「困っているもの？何が必要か？」と気にかけてくださっております。

斎藤理事長は「毎年寄贈頂きありがとうございます。ありがたく、大切に使わせていただきます」と感謝の気持ちを伝え、感謝状を贈呈いたしました。

令和8年度
新規学卒者内定式

Newsその3



11月17日、法人本部において、新規学卒者6名（介護・保育・調理職）の内定式を執り行いました。

式の中で、斎藤理事長は「敬老園を選んでくれてありがとうございます。地域を支えていく為に、介護等はなくてはならない仕事です。皆さんの力添えをよろしくお願いします。残りの学生生活を充実したものとし、また春に皆さんと会えるのを楽しみにしています。」と激励し、内定者代表からは「施設見学をした際に、ご利用者一人ひとりの身体状況や、嗜好に応じた食事提供がなされていることや、季節感のある献立を通して、食べる楽しさを大切にしていることに共感し、管理栄養士として、ご利用者の皆様に日々の楽しみである食事の面から支えたいと思いました。人との関わりや思いやりの心を大切にし、笑顔と安心をお届けできるよう努力してまいります。」と温かさを感じる決意表明がありました。

News その4

スポGOMI全国大会（東京）に
長野県代表として出場！

＼ 大会前 絶対優勝するぞ！と気合十分 ／



左より
征矢統括施設長
朝日管理者
朝日介護福祉士



北信地区事業所（長野・中野・山ノ内）を代表する3名の職員が、日本財団主催の「スポGOMIワールドカップ2025」長野県大会（3月29日開催）を勝ち抜き、長野県代表として全国大会（9月21日開催）に出場しました。身近な「ごみ拾い」という行動が、世界中の人々をつなぐ力を持っていることに驚きと感動を覚え、競技として楽しみながらも「街をきれいにしたい」という思いを全員で共有する時間となりました。

全体の21位と優勝には届きませんでしたが、仲間と声をかけ合いながら一つひとつのごみを拾う中で生まれた笑顔や一体感こそ、この大会の魅力だと感じています。「これからもディフェンディングチャンピオンとして挑戦を続け、「敬老園」の名を広めていければ嬉しいです。」（参加者）

地域に根差した「介護」を目指す私たちにとって、スポGOMIを通じたこの経験は、地域をより住みやすくする大切な一歩となりました。

中信地区
松本・豊科地域
秋の行事紹介

News その5

～ 晴天に恵まれて6年ぶりの開催 ～
うつくし収穫祭

10月29日、複合施設うつくしがはら温泉敬老園（松本市里山辺）の収穫祭を開催しました。当日は有料老人ホーム、デイサービスセンター、ショートステイ、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、栄養課の職員・ご利用者総勢約180名が参加しました。

「好きなものを好きなだけ」と収穫祭では、「松茸ごはん」「栗ごはん」「さんま」「天ぷら」「おでん」「焼き芋」等、旬の食材がふんだんに使われた料理を各ブースで提供。職員・ご利用者が一緒に屋台巡りをし、「何を食べようかな。」と楽しみながら秋の味覚を堪能しました。「おでん」の具を選んでいたご利用者に「何がお好きですか。」と伺うと「全部！」と勢いよく答えがあり、楽しい一日となりました。





News その6

第13回 中信地区作品展

～ 利用者手作りの応募作品多数 ～

テーマ

「環」人と人が環になって繋がる。
和・輪・笑。
人との協調、人の笑顔、
それぞれが結びつき幸せが広がる。

うつくしがはら温泉敬老園西棟大ホールに於いて、10月10日～20日の期間、13回目となる作品展を開催致しました。当法人が運営している中信地区14事業所のご利用者、職員が手作りした作品約250点を展示しました。

今年は新たな取り組みとして、「不用品」を再利用したリサイクルアートに挑戦。壊れた文房具を使用した前衛的な作品、シュレッダーで裁断された紙で作った富士山、ペットボトルの蓋を活用した笑顔満点の落語家等、職員・ご利用者の共同作品の見事な出来栄えで、地元誌に紹介されました。

今年の来場者数は437名（内：一般来場者数91名）となり、前年より多くの方々が来場されました。ご利用者の中には、「作品展にかける想いは誰にも負けません！」と力作の出展作品もあり、この作品展がご利用者の「生きがい」や「やりがい」に繋がっております。



リサイクルアート



理事長賞



理事長審査



五感で味わう敬老園の食事　～ 栄養部から ～　第38回

日々の食事から思いを込めて…

養護老人ホーム 報恩寮

上田市上田原1050

明けましておめでとうございます。

昨年報恩寮は、豆まき・お花見・敬老会・クリスマス会等のイベントで、四季折々の食事を楽しんでいただくことができました。日々の食事では同テーブルのご利用者同士で談笑や、食事後は職員の片づけを手伝ってくださる等、施設内はアットホームな雰囲気に包まれております。「今日のお食事いかがでしたか？」と伺うと「おいしかったわ。どうやって作るの？」「食事作るの大変だよね。」と、自分の母と会話をしているかのように皆様接してくださり、忙しい日々の中でもご利用者との会話に、ホッとする時間をいただいております。

今後も日々の食事を通じて、皆様にいつまでも元気でお過ごしいただけるように工夫を凝らしてまいります。

今年もよろしくお願いいたします。



養護老人ホーム 報恩寮 栄養課　遠藤 久美子

＼ 栗おこわ ／







編集後記

明けましておめでとうございます。コメ価格の高騰は、私の家計にも大ダメージを与えています。今年はどうなっていくでしょうか。葛藤していますが、やっぱりお米を食べたい年頃です。本年もよろしくお願いいたします。

古田（30代男性）